

大草谷津田いきものの里 観察会

白いチョウはモンシロチョウ？

小川 洋子（八千代市）

日 時：2015年4月19日（日） 10：30～12：00 天候：曇り

参加者：20名（大人16名、子ども4名）

担当指導員：太田慶子・小川洋子

観察会当日は、お日様は顔を見せてくれず、曇りで気温も上がらない。始まる前の下見で見たのはシャクガの仲間とベニシジミ各1頭のみだった。

観察会では、今回が初めてという参加者が多かったので、この場所が千葉市内の自然豊かな里山を保全するため、地元の方の協力を得て「いきものの里」になって10年となることを説明した。

その後、「この時期に見られる白いチョウはどんなチョウがいるか」と質問してから、＜モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、ツマキチョウ、モンキチョウの雌＞がいることを図で説明、特にツマキチョウはこの時期しか見られない春のチョウであることも加えた。それから、今日のような曇りで気温が低いときは、チョウは見られないかもしれないことを話して、前もってほかで捕獲しておいたチョウのサンプルをお見せした。

（スジグロシロチョウはなし）ツマキチョウ、モンシロチョウ、モンキチョウではいずれも雌が大きいことがサンプルを見るとよくわかった。食草の違いや好む場所の違いについても話してから出発した。

実際に歩いて行くと、残念ながら白いチョウは飛んでくれない。しかし足に花粉を付けたコマルハナバチ、ヒメギスの幼生、ミカドガガンボやオビコシボソガガンボなどのガガンボ類、カラスノエンドウについてのアブラムシを食べるナナホシテントウの幼虫などが観察できた。

子どもの参加者は目線が低いせいか枯葉の上の走り回るクモ類に興味津々、また田んぼに群れるアズマヒキガエルの黒い小さなオタマジヤクシに盛り上がった。さらに田んぼではシュレーゲルアオガエルの鳴き声がにぎやかだ。そこへYさんがシュレーゲルアオガエルの綿菓子のような卵塊を見せてくださった。

チョウでは唯一飛んだルリタテハ、サルトリイバラについてのルリタテハの緑色に縦じま模様のわずか1ミリほどの卵に一同感心した。最後にやっと開いたタンポポに止まっていたモンシロチョウが見つかった。今日のテーマの白いチョウは残念ながらこれだけだった。

参加者からは「いつも鳥を見に来ていたが、足元にも視野が広がった」「ルリタテハの卵を見つけたことに感心した」「いつもは泉自然公園へ行っていたが、こちらにも参加したい」との感想が聞かれた。



↑上のようになると裏表をみることができる